

日本認知言語学会第15回全国大会プログラム 【1日目】

9月20日（土）受付9時30分から（独立館1階 学生部前にて）

		第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室
		D205	D203	D201	D202	D310	D311
ワークショップ		<テーマ> 概念化を再考するー 認知科学的知見の積 極的導入ー	<テーマ> 「無」の概念に関す る認知的考察ー東西 文化の比較	<テーマ> 言語獲得とこころの 発達ー使用から見る 言語習得の諸側面ー	<テーマ> 文構造をAnchoring Structureで捉える	<テーマ> 日本人の社会文化的 認識と言語使用	<テーマ> 構文研究の次なる四 半世紀に向けてー構 文文法における4つの 問題とその解法ー
	10:00 12:20	○濱田英人（札幌大 学）・對馬康博（札 幌大学）・中村芳久 （金沢大学）	○Marina Shchepetunina（大 阪大学）・豊田純一 （国際基督教大 学）・横井滋子（広 島大学[院]）	○谷口一美（京都大 学）・深田智（京都 工芸繊維大学）・小 松孝至（大阪教育大 学）	○高島彬（金沢大学 [院]）・小林隆（金沢 大学[院]）・向井理 恵（金沢大学[院]）・ 中谷博美（金沢大学 [院]）	○植野貴志子（東京 都市大学）・町沙恵 子（日本女子大 学）・難波彩子（岡 山大学）・野村佑子 （立教大学）	○吉川正人（慶應義 塾大学[非常勤]）・森 下裕三（神戸大 学）・浅尾仁彦 （ニューヨーク州立 大学バッファロー校 [院]）・野中大輔（東 京大学[院]）・貝森有 祐（東京大学[院]）

昼食休憩（12:20～13:20）

開催校挨拶：慶應義塾 清家篤 塾長（13:20～13:30）会場：D101

特別講演 （13:30～15:30） 会場：D101	講師：Daniel L. Everett (Bentley University) 司会：野村益寛（北海道大学）
演題：On the Role of Culture in the Emergence of Grammar	

総会（15:30～15:45）会場：D101

		第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室
		D205	D203	D201	D202	D310	D311
司会		有光奈美（東洋大 学）	坂本真樹（電気通 信大学）	本多啓（神戸市外 国語大学）	松本曜（神戸大 学）	鷲見幸美（名古屋 大学）	篠原俊吾（慶應義 塾大学）
第1発表	16:00 16:35	「讓歩への変化と讓 歩からの変化」大橋 浩（九州大学）[招聘]	「失語症者の多義 ネットワーク構造に ついてー格助詞 「ヲ」を中心にー」 宮本恵美（熊本保健 科学大学）	「ルビと視点ーライ トノベルを中心に ー」出原健一（滋賀 大学）	“Competing for the Main Verb Slot in French Motion Expressions” 守田 貴弘（東洋大学）	「日本語複合動詞の 自動詞化のメカニズ ムについてープロ ファイルシフトと痕 跡的認知の観点から ー」陳奕廷（神戸大 学[院]）	「英語名詞転換動詞 の機能的意義とその 意味拡張への動機づ けについて」中島浩 貴（神戸大学[院]）
第2発表	16:35 17:10	「尺度導入表現が引 き出す推論パターン ー連体詞「大の」 「大した」と取り立 て詞およびトートロ ジーとの共通性ー」 大石亨（明星大学）	「擬態語の身体運動 意味論的考察」月本 洋（東京電機大学） [招聘]	「「現前」と「非現 前」の<見え>を重 ねる<事態把握>」 ○守屋三千代（創価 大学）・池上嘉彦 （昭和女子大学・東 京大学名誉教授）	「英語移動構文にお ける不変化詞upと downー着点と途中経 路に着目してー」濱 上桂菜（大阪大学 [院]）	「構文の使用と社会 的規範ー家庭内相互 行為における「てあ げる」構文を例に」 遠藤智子（日本学術 振興会・筑波大学）	“The Change of Grammatical Patterns with the Verb <i>Feel</i> ” 柴田かよ 子（京都府立大学 [院]）
第3発表	17:10 17:45	「Content Domain における含意関係と 認識世界の広がりー 「広義原因」の認識 表示と「だるう」 ー」木下りか（武庫 川女子大学）	“A Usage-Based Approach to Abstract Loanwords in Japanese: A Case Study of <i>Taimu</i> ” ○ HAMLITSCH Nathan（名古屋大 学[院]）・堀江薫（名 古屋大学大学院）	「日本語の「人称制 限」は「人称」制限 ではないー内的状態 述語における話者・ 概念化者・体験者の 区別ー」上原聡（東 北大学）[招聘]	「動詞arriveのドイ ツ語訳・中国語訳か ら見えてくるものー 動詞枠付け性（+衛 星枠付け性）という 新たな見方ー」出水 孝典（神戸学院大 学）	「北海道方言におけ る「逆使役構文」に 関する認知的考察」 井上拓也（京都大学 [院]）	「イメージスキーマ の事例化：「サキ」 の多義構造を中心 に」趙無忌（宇都宮 大学[院]）

懇親会（18:10～20:10）会場：来往舎地下1階 ファカルティラウンジ

※1日目・2日目ともに、独立館1階・2階にて書籍展示を行います。

日本認知言語学会第15回全国大会プログラム 【2日目】

9月21日(日) 受付9時10分から(受付は1日目に受付を済まされていない方だけで結構です)

		第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室
		D205	D203	D201	D202	D310	D311
司会		古賀恵介(福岡大学)	吉村あき子(奈良女子大学)	早瀬尚子(大阪大学)	澤田淳(青山学院大学)	三宅登之(東京外国語大学)	黒田航(杏林大学)
第1発表	9:30 10:05	「転移修飾語の分析—言語表現の背後の意味構築メカニズムとして—」山本幸一(愛知県立松平高等学校)	「語り手によるメタファー操作とその効果—音楽に関するTED講演の分析から—」歳岡冴香(大阪大学)	「双方向伝達モデルによる英語心理動詞構文の意味構造の描写」大槻くるみ(東北大学[院])	「認知言語学的な観点から見た「-ておく」の意味と用法—「場を占める」を中心とする意味のネットワーク—」許臨揚(名古屋大学[院])	「なぜ<他動性の調和原則>が適用不可能なのか—使役を表す中国語の動補構造とゲシュタルト効果」楊明(関西学院大学)	「フレーム意味論に基づいた日英形容詞の意味の対照に関する一考察」阪口慧(東京大学[院])
	10:05 10:40	「直喩再考—“like”の機能と様々な修辞技法の関連について—」伊藤薫(京都大学[院])	「現代日本語における光の捉え方と概念化—「明るい」と「暗い」を中心に—」松浦光(名古屋大学[院])	「Talmy類型論と結果構文の類型論の統合に向けた試論」伊藤彰規(神戸大学[院])	「補助動詞「～ておく」の意味に関する一考察」宋天鴻(東京大学[院])	「中国語のモーダルマーカ—必須(bìxū)—の節連結機能—文法化と機能拡張の観点から—」〇朱氷(名古屋大学[院])・堀江薫(名古屋大学大学院)	「日本語フレームネットワークに見る文法と語彙の連続性」小原京子(慶應義塾大学)[招聘]
10分休憩							
司会		堀江薫(名古屋大学)	田村幸誠(大阪大学)	樋口万里子(九州工業大学)	谷口一美(京都大学)	王安(岡山大学)	菅井三実(兵庫教育大学)
第3発表	10:50 11:25	“What you eat is how people count: Development of counting system from a cognitive-anthropological perspective” Junichi Toyota (International Christian University)	「音象徴語に潜む言語普遍性と個性性：産出実験からのアプローチ」〇佐治伸郎(鎌倉女子大学)・秋田喜美(大阪大学)・Katerina Kantartzisc (Birmingham City University)・喜多壮太郎(University of Warwick)・今井むつみ(慶應義塾大学)[招聘]	「程度性と百科事典的知識の活性化—カテゴリー—帰属を表すヘッジ表現として働く程度副詞の名詞修飾—」梶原彩子(名古屋大学[院])	「準代名詞「の」と「の」による名詞化節—認知文法および場所の言語学的観点から—」城野大輔(東京学芸大学[院])	「時間の概念化に関する日中対照研究—「先」の用法を例に—」鄭新爽(広島大学[院])	「なぜ「中距離指示」のソ系は「そこ」という形式で用いられることが多いのか—共同注意の確立と話し手による指示形式の選択—」平田未季(秋田大学)
	11:25 12:00	“Culture behind Colors: The semantic network of YELLOW in Mandarin and Japanese” Li, Po-Wei (李柏緯) (National Taiwan University [院])	「オノマトペの動詞化に関する研究—「ばらつく」を中心に—」菅原崇(岐阜工業高等専門学校)	「挿入節の分布から見る談話の周辺と情報連鎖について— <i>the question is (that)</i> と <i>that's the question</i> を事例として—」柴崎礼士郎(明治大学)	「本動詞から複合動詞後項への意味拡張動機づけ—類義表現「～きる」「～ぬく」「～と出す」を例に—」栗田奈美(立教大学)	「日本語学習者と日本語母語話者の事態把握の傾向差と相対的距離—中国語母語および韓国語母語学習者を対象に—」〇近藤安月(東京大学)・姫野伴子(明治大学)・足立さゆり(白百合女子大学)	「会話における助詞「シ」の機能」山内美穂(杏林大学[院])

昼食休憩(12:00~14:00 ポスターセッションを含む)

ポスターセッション	12:30 13:30 13件 同時進行	「身体部位の比喩写像による空間・時間への意味拡張とその制約：日英対照研究」根木英彦(大東文化大学[院])	「エジプト語のヒエログリフにおける複数接尾辞をあらわす文字重複の類像性と歴史的变化—認知歴史文字論の確立に向けて—」宮川創(京都大学[院])	「時を表す前置詞の指導方法への認知言語学的アプローチの試み—at, in, onを中心に—」中川右也(青翔開智中学校・高等学校)	「現象文(中立叙述「が」文)の2種—日本語におけるく見えていること・いないこと>—」島映子(昭和女子大学[院])	「言語教育における異文化教育の一環として、認知様式の違いと言語表現の違いを考察する—「奈良時代の日本語」・「漢語」・「英語」の場合—」今井隆夫(愛知県立大学[非常勤])	
	すべて 独立館 3階 オープンスペース にて	「イディオムから見る <i>foot</i> と <i>leg</i> の意味拡張」今井友理(愛知県立大学[院])	「統語的特性からみる前置詞 <i>over</i> 、 <i>under</i> の意味と機能」堀内ふみ野(慶應義塾大学[院])	「タンザニアの中学生が持つ「正」「負」の典型例と計算技能獲得の関連について」須藤絢(山陽女学園中等部・高等部)	「相に関する制約から見る結果構文の拡張」堀川恵(愛知県立大学[院])	「使用依拠からの軽動詞構文再考—give a V構文に関して—」井口智彰(大島商船高等専門学校/広島大学[院])	
		「文法における定型表現の役割：ことわざ(proverbs)の場合」宮浦国江(愛知県立大学)	「重複型会意文字の意味分類—認知文字論の観点から—」黒田一平(京都大学[院])	「前置詞の多義性への一考察」遠藤雪枝(清泉女子大学)			

シンポジウム (14:00~16:40) 会場：D101	テーマ：「認知言語学の将来を考える：日本認知言語学会設立15周年にあたって」
	辻幸夫(慶應義塾大学・本学会会長) 中村芳久(金沢大学) 吉村公宏(奈良教育大学) 「基調講演：学際研究としての認知言語学を捉え直す」 「学際研究の中の認知言語学：言語とコミュニケーションの進化」 「捉え方の普遍性と多様性」

閉会挨拶(16:40~16:45) 会場：D101